

原子力安全監視室の進捗状況報告

5月15日に原子力安全監視室(NSOO)が設立され、当初4～5名で準備を開始、7月1日に第一陣のスタッフが加わった。この新体制で、東電の原子力安全に関するパフォーマンスを向上させ、世界で最も安全な企業の一つとなることを目標として、室員のトレーニングと議論を進めている。

これに先駆け、クロフツ室長と増田副室長は、安全に関する様々な会議に出席したほか、複数の原子力発電所を訪問し、所長ほか幹部、原子炉主任技術者との意見交換を行った。この訪問は自己紹介を兼ねたもので、第一印象を得たにすぎず、安全性全体の評価にはしばらく時間がかかるであろう。しかしながらこの訪問は下記のように、NSOO がどの分野にフォーカスすべきかを検討するのに役立った。

まず初めに、東電は強固な原子力安全文化を持っているのか？ それを向上するため何をすべきなのか？ 原子力安全・人身安全と環境の保護、が東電及びその幹部の最優先事項となっているか？ 原子力安全文化の価値が原子力部門の全員によって体現され、それを最優先にして全てのことが行われているのか？ などである。

次に NSOO は、安全に関する東電の企業統治体制を評価している。どのように意志決定がなされ、安全に関する全ての正しい情報が検討されているか？ それらの意志決定には十分な議論や意見が出、情報が与えられているか？ 現状の組織体制は機能し、原子力安全に有効な管理がなされているか？ などである。

NSOO が会社全体を横断して評価する他の主な項目には以下を含む。

- ・ 経験から学ぶ：ベストプラクティス（好事例）を見つけるためあらゆる努力を払い、それらを用いているか？
- ・ 協力企業の管理：東電は高い割合で協力企業に依存しているが、協力企業は東電と同様の安全に対する価値観を持っているか？ また彼等が行っている安全の確保について東電は管理をしているか？
- ・ 変更の管理：東電は、原子力安全に関する組織の変更や補完等を評価し、管理するための適切なシステムを持っているか？

サイト（原子力発電所）の状況は複雑であり、それぞれのサイトによって異なっている。このため原子力安全監視室はそれぞれに対し異なる質問をすることになる。

○まず最も優先順位が高いのは、福島第一原子力発電所の安定化である。本件についてどのような対策をとるかを定めることは NSOO の役割ではないが、我々は彼らの判断が原子力安全を第一に考え適切になされているかを確認する。

臨界の可能性を防ぐ管理、燃料の冷却、放射性物質を安全に閉じこめる、これらのため必要なあらゆる手段はなされているか・・・冷却水の管理は安全に関するあらゆる情報を最大限に織り込んだ上でなされているのか？

サイトで行われている作業に関して、我々はそれらが着実に手順だった安全管理手法に従って実施されていることを確認する。

応急対策が、適切に設計された恒久対策へと変更されているか？

その対策は、原子力安全管理、復元性、深層防護、多重性、多様性などすべてを適切に備え、十分に技術検討なされたものか？

新しい設備の導入、従来の設備の修理に関して、安全面はきちんと分析され、念入りに議論されているか？

そして作業およびその作業している人々の安全を、どのように管理しているのか？我々は厳しく混乱した状況におかれた従業員の被ばくを最小限にし、安全と健康を保っているだろうか？

そして最後に、サイトの緊急時対策は現在あるリスクに照らし適切なものだろうか？

○柏崎刈羽のサイトで重視すべきは、設計変更、安全解析、設備の設置が適切に行われていることである。

しかし、停止期間が長く、多くのスタッフが原子炉を実際に稼働させたことがないという状況もあり、長期にわたる原子炉の停止の間のメンテナンスやその間の運転員の訓練、スタッフの精神的な心構えには疑問もある。

○最後に、福島第二原子力発電所に関しては、原子炉は安定的に冷温停止しているとはいえ、設備改修や保全、そして所員の厚生面やモラルなど幾つかの重要な課題がある。

今後 NSOO は、東電が発電所を安全に運営し、従業員が東電の原子力安全基準を向上させることを着実に支援し、当社の原子力安全を世界トップレベルに到達させるため、安全のシステムやその判断、遂行をしてゆくべき分野で、しっかりと質問をしていく。

以 上